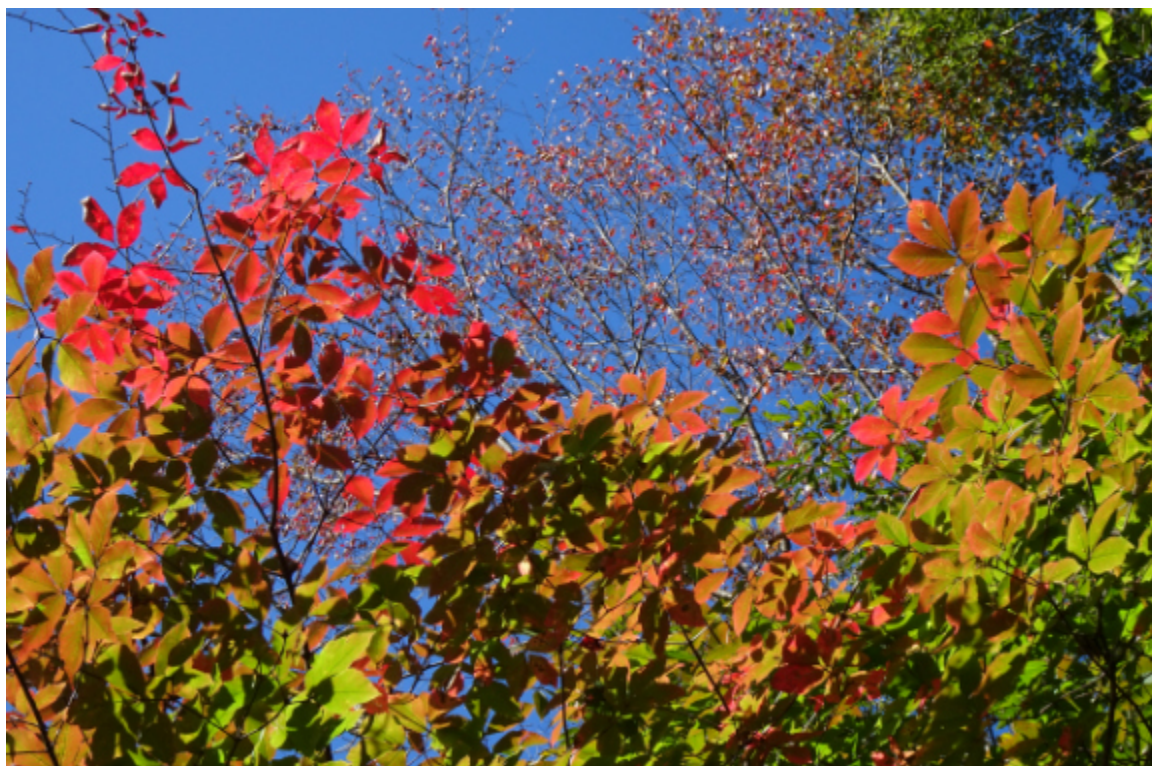


仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2022年11月号

森のおくりもの11

NO.374 The Gift from Woods

メグスリノキ（ムクロジ科）



赤は赤でも見上げると、頭上を覆った紅葉の赤い色。紅葉色、猩々緋、唐紅、赤に溶け込む朱色、黄金色に輝く紅葉から始まり、青空に映えるメグスリノキの葉は、日を追うごとにあでやかさを増しています。また、観察の森は、ハウチワカエデやヌルデ、ヤマウルシなど沢山の植物も衣替えを行ない錦秋(きんしゅう)を迎えておりますので、葉が紅葉して散る姿を含め、寒くなる前の観察の森の秋麗(あきうら)を存分にお楽しみ下さい。

【文：館長 佐藤由美】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

『Serendipity (セレンディピティ)』

秋晴れの気持ちがいいある日、リンドウの花を探しながら散策路を歩いていたら、何かいたような気がして立ち止まりました。特に気配を感じず、静かな空気が漂っていて、気のせいだったのかと思ったところ、つぶらな瞳に気がつきました。まだら模様の小さなヘビです。マムシかな？と思いましたが、頭部が丸かったので、アオダイショウの幼い蛇だとわかりました。マムシに擬態しているといわれている体色に感心していると、ヘビの様子が「みつかってしまった気もするけど、大丈夫かな？」なんて、戸惑っているように思えて可愛らしかったです。間もなく冬眠の時期で、姿が見られなくなる前に見ることができた出会いでした。

思いがけない出会いや発見があることが自然の楽しさのひとつだと感じます。このようなことについて何と言い表すのか探ったところ、英語で『Serendipity (セレンディピティ)』という言葉がありました。「素敵な偶然に出会ったり、予想外のものを発見すること。また、何かを探しているときに、探しているものとは別の価値があるものを偶然みつけること。」という意味です。この言葉はイギリスの小説家・政治家のホレス・ウォルポール（1717～1797）が、子どもの頃に読んだ『セレンディップの3人の王子』という童話のストーリーから生み出した造語で、1754年に友人へ宛てた手紙で使ったそうです。主に科学の世界で使われていて、代表的な事例は、ニュートンが“リンゴが木から落ちる”のを見て、万有引力に気づいたといわれていることや、強力な接着剤を開発しようとしたら失敗して粘着力が弱いものできてしまい、それをしおりに使えるとひらめいたことでポストイットができた、などがあげられ、商品開発や発明などのエピソードで使われるなど、ビジネスの世界では注目されている言葉のようです。

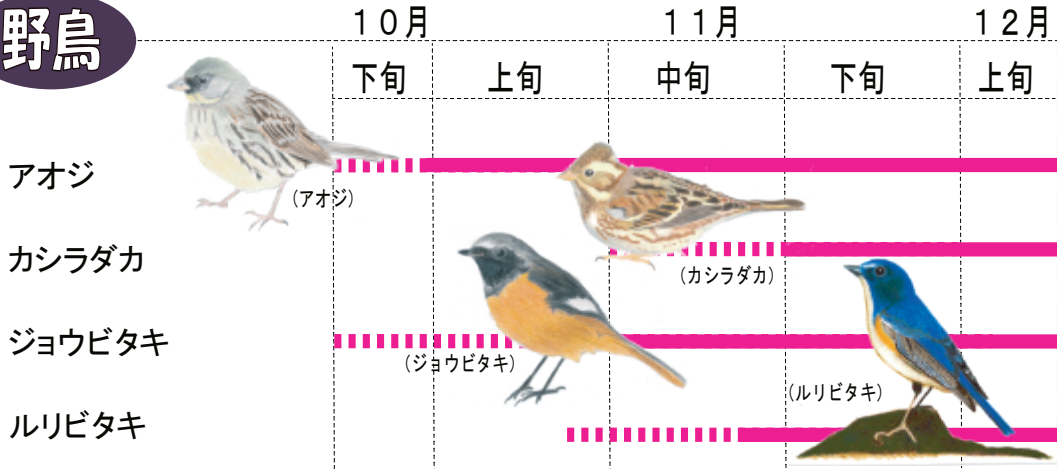
継続して同じ場所で観察していると、貴重なものでも、ありふれたものでも、偶然素敵な光景が見られたり、昨日は気づかなかったことに気づけたりすることがあって、そこも自然散策のおもしろいところです。太白山自然観察の森は、仙台の街中から近いので、気軽に季節ごとの自然の変化の経過や近所の自然と比較して観察できる身近な場所です。度々訪れてセレンディピティ感覚を楽しんでみてはいかがでしょうか。
【レンジャー：新田隆一】



11月の生物ごよみ

- 【植物】 太白山周辺では後半に咲く『キッコウハグマ』は10月12日、『リンドウ』は16日に開花が確認されました。この花たちが終わると来年の『セリバオウレン』や『マンサク』まで植物の開花はお休みになります。
- 【ドングリ】 昨年は豊作でしたが今年のドングリは不作のようです。ドングリは不作と豊作が不定期にめぐってきます。クリも不作であまり拾うことが出来ませんでした。
- 【ナラ枯れ】 自然観察の森でナラ枯れが初めて発生したのは2013年になります。あれからちょうど10年がたちました。今年はこの周辺でナラ枯れの発生は確認されていません。落ち着いたのでしょうか。さらに経過を観察したいと思います。
- 【キノコ】 夏場に雨が少なかったせいか、キノコも全体的に不作だったようです。夏に発生するタマゴタケやイグチの仲間もあまり見られなかったようです。カエントケはナラ枯れで伐採した木の根元から数か所発生しました。
- 【昆虫】 秋の鳴く虫で毎年8月中頃から鳴きはじめる『チツゼミ』もほとんど鳴き声を確認することが出来ませんでした。また『ヤブキリ』や『ヘリグロツユムシ』の鳴き声もあまり確認されていません。今までは毎日のように聞くことが出来た虫の声が聞こえなくなり少し残念です。
- 【野鳥】 冬鳥の一番手『ジョウビタキ』は10月19日にセンター付近の市道で確認することが出来ました。冬鳥たちの動きはこれから期待したいと思います。
- 【野生動物】 昨年に引き続き、センサーカメラに写る動物の数が少ない気がします。9月末のセンサーカメラにカモシカ親子が写っていました。ツキノワグマに関しては周辺では目撃情報が多い中、自然観察の森では確認されていません。 【レンジャー: 齋 正宏】

野鳥



森の「あれこれ」



「マムシグサと野鳥たち」



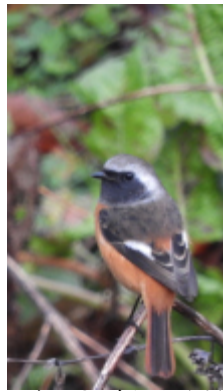
秋が進み観察の森でも紅葉がより映えてきました。それに負けないほど艶やかなのが左上の写真「マムシグサ」の実です。“赤いトウモロコシみたい”と言われても決して口にしないでください。毒があって口の中が大変になります。ちなみに右上の食虫植物みたいなのは5月の花の姿です。



ヤマガラ



ヒヨドリ



ジョウビタキ(雄)

さてこのマムシグサの実ですが、上の部分が少しなくなっています。どうも誰かが食べているようです。前にヤマガラが食べるのを観察しました。ヤマガラはエゴノキやイチイの種など毒性の強い種も食べます。毒への耐性がある

のでしょうか。調べてみると他にヒヨドリやジョウビタキの食べている事例を見つけました。ヒヨドリは木の実が大好きな鳥です。ヤマガラとヒヨドリは一年を通じて観察の森で見られます。一方ジョウビタキは秋にやってきて春にはいなくなる冬鳥です。

さて、マムシグサになったつもりで(笑)想像してみると、野鳥が食べるのにちょうどいい大きさにしたり赤い色で目を引いたり、マムシグサは鳥に種を運んで欲しいと思っているみたいです。一方、野鳥は飛ぶために体を軽くしたいので消化器官が短く食べたものをすぐ排出します。そのため多少の毒も耐えるのでしょうか？食べ物が少ない季節、マムシグサの実も冬を乗り切るための貴重な食料なのかもしれませんね。 【レンジャー：木田秀幸】

森は糸 森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*_*)

カラムシ(イラクサ科)の葉を2枚合わせたもの(写真①赤丸)が複数見られました。中を覗いてみると黒い芋虫が丸まっていた(写真②)。薄黄色のトゲトゲで覆われ触ったら痛そうな感じです。下の方では、2枚合わさった葉が今度はブルンブルンと大きく揺れています。フクラスズメ(ヤガ科)の幼虫が暴れているのか、と思いつつ中を覗くと白い蛹が(写真③)揺れていたのです！何と蛹も動くんですね。・・・(^_^)



この幼虫や蛹の正体は、アカタテハ(写真⑥)(タテハチョウ科)のものでした。年に数回羽化し、早春と晩秋によく見られます。10月から11月にかけて羽化した成虫は冬を乗り切ることができれば早春の頃に交尾をして産卵します。それにしても他の蝶のように卵、幼虫、蛹のいわば子孫の形で越冬した方が種の保存には有利のような気がするのですが。確かにアカタテハは樹液や熟した果実などを吸う(写真④赤丸、他のチョウはルリタテハ)ので花の少ない時期でも食事ができるし、翅を閉じれば樹木と同化し外敵の目を眩ませることもできます(写真⑤)。さらに羽化したての翅を広げて日光浴をすれば活発に飛ぶこともできます。体内には凍りにくい成分が作られ寒さ対策はばっちりかもしれません。とは言え、寒い冬を乗り切るのは命掛けです。木枯し吹きすさぶ森で逞しく生きるチョウがいるのですね。(。_。) 【レンジャー：菅原幸彦】

11月のイベント & お知らせ

イベント

◆「もみじの森の葉っぱ感さつ会」

【日 時】11月12日(土)10:00~12:00

【対 象】小学生以上の子どもとその保護者 10名

【内 容】紅葉で色づいた葉っぱで自然遊びをしながら、秋を感じて過ごします。

【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、歩きやすい服装と靴

【申込み】11月6日(日)午前9時より電話受付(先着)

◆「鉤取山ネイチャーウォーキング」

【日 時】11月19日(土)10:00~15:00

【対 象】小学生以上 20名 (中学生以下は保護者同伴)

【内 容】自然や歴史について講師の解説を聞きながら秋の鉤取山を歩きます。

【持ち物】昼食、飲み物、帽子、かっぱ、歩きやすい服装と靴

【申込み】11月8日(火)午前9時より電話受付(先着)

◆「木の実、草の実をみつけながら秋の森を歩こう」

【日 時】11月26日(土)10:00~11:30

【対 象】小学生以上 10名 (中学生以下は保護者同伴)

【内 容】植物の実を探して、植物の種子散布や子孫を残す工夫を考えます。

【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、歩きやすい服装と靴

【申込み】11月9日(水)午前9時より電話受付(先着)

ガイドウォーク

毎週日曜日開催

申込み不要、どなたでも参加できます。

開催日: **6日, 13日, 20日, 27日**

時 間: **10:00~11:30, 13:30~15:00**

(午前と午後の2回開催)

休館日



7日, 14日, 21日, 28日

毎週月曜日休館、月曜日が
祝祭日の場合は火曜日休館

観察の森へのアクセス



宮城交通バスの場合

① 仙台駅 乗車時間 約40分

② 長町駅東口 乗車時間 約30分

③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

【行先】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」

※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」

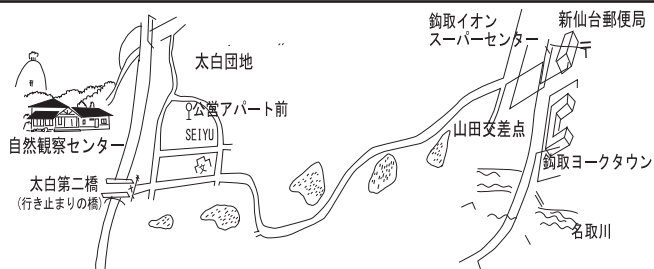
いずれも 公営アパート前 下車 → 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。

道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。

駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財) 仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター